



無所属・無党派 無駄遣いを許さない福祉充実の政治

発行者：さいたま 変革の会

川村 準 じゅん

9月29日号

週間活動レポート

〒336-0017
南区南浦和2-28-9-102
携帯 090-1404-2151
junkawamura1923@gmail.com

政務活動費

大学院のゼミを公費で負担？

海外視察はおかしなことばかり！

市議会議員の海外視察は本当に必要なのか。以前のレポートでは、市議の海外視察は姉妹都市の訪問と政務活動費を使った2つのタイプがあり、姉妹都市の訪問に関して問題点を述べました。今週号は、政務活動費を用いた海外視察の問題点をまとめました。

目的なしで海外訪問

政務活動費の大きな問題点として、政務活動費を用いた議員個人による政策研究のための海外視察があります。ここ最近では以下のような使われ方がされてきました（注・政務活動費とは、議員の年収以外に政治活動などに用いる事の出来

問目的を明記せず、残念ながらこちらも

海外まで行って3分の質問

加えて、08年度には4人の民主党議員がアメリカを訪問しました。子ども政策の学習目的に米国の訪問したとしていますが、帰国後の子ども政策の言及時間はわずか2〜3分。およそ150万円の税金を使った成果としてはお粗末です。

09年度には、添野、土井両議員（改革フォーラム、当時の会派は民主）が明治大学ガバナンス研究科の青山ゼミでイギリ

市政に活かされませんでした。

スに行きました。両議員は明治大学ガバナンス研究科の客員研究員であり、議員本人たちの視察費である約35万円を市民の税金で負担してもらった形です。ゼミのお金を公金で賄うとは、見事な公私混同と言わざるを得ません。

11年度は、渋谷、福島、萩原、野口、霜田（以上自民）、三神、高柳（以上民主）、輿水（公明）、添野（改革フォーラム）議員の9名で、ラオスがさいたま市の水道システムを導入したと言う事で議長に付き添い同国を訪問。しかし、約200万円かけ9人も大行列のようについていく必要があったのでしうか。

以上を踏まえ、私は、年間1300万円の報酬を受け取るさいたま市の議員にとって政務活動費408万円の支給は不要であり廃止して、住民サービスを充実させるべく福祉の予算をもっと増やすべし、と主張します（福祉の問題は次号以降に掲載予定）。